（３）備考欄にある「＊」は，「（付）字体についての解説」「第２　明朝体と筆写の楷書との関係について」の「３　筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが，字体の違いに及ぶもの」の中に参照すべき具体例があることを示す。当該字が具体例として挙げられている場合は，＊の後に，［（付）第２の３参照］と掲げたが，具体例が挙げられていない場合は［（付）第２の３【剝】参照］のように，同様に考えることができる具体例を併せ掲げた。

また，しんにゅうの字，及びしんにゅうを構成要素として含む字のうち通用字体が「辶」で示されている字については，上記「第２　明朝体と筆写の楷書との関係について」の「１　明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの」の中に「辶・辶－辶」が示され，「辶」も筆写では「辶」と同様に「辶」と書くことから，上の「３　筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが，字体の違いに及ぶもの」の例に準じて，備考欄に「＊」を付し，＊の後に，［（付）第２の１参照］と掲げた。

なお，「＊」の付いた字の多くは，昭和５６年の制定当初から常用漢字表に入っていた字体とは，「臭⇔嗅」「歩⇔捗」「狭⇔頬」「道⇔遡」「幣⇔蔽」などのように，同じ構成要素を持ちながら，通用字体の扱いに字体上の差異があるものである。

13　「付表」には，いわゆる当て字や熟字訓など，主として１字１字の音訓としては挙げにくいものを語の形で掲げた。便宜上，その読み方を平仮名で示し，五十音順に並べた。

付　情報機器に搭載されている印刷文字字体の関係で，本表の通用字体とは異なる字体（通用字体の「頬・賭・剝」に対する「頬・賭・剥」など）を使用することは差し支えない。

（付）　字体についての解説

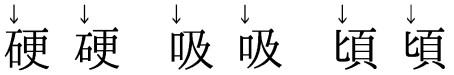
第１　明朝体のデザインについて

常用漢字表では，個々の漢字の字体（文字の骨組み）を，明朝体のうちの一種を例に用いて示した。現在，一般に使用されている明朝体の各種書体には，同じ字でありながら，微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし，各種の明朝体を検討してみると，それらの相違はいずれも書体設計上の表現の差，すなわちデザインの違いに属する事柄であって，字体の違いではないと考えられるものである。つまり，それらの相違は，字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下に，分類して，その例を示す。

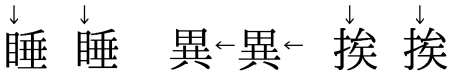
なお，ここに挙げているデザイン差は，現実に異なる字形がそれぞれ使われていて，かつ，その実態に配慮すると，字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断したものである。すなわち，実態として存在する異字形を，デザインの差と，字体の差に分けて整理することがその趣旨であり，明朝体字形を新たに作り出す場合に適用し得るデザイン差の範囲を示したものではない。また，ここに挙げているデザイン差は，おおむね「筆写の楷書字形において見ることができる字形の異なり」と捉えることも可能である。

１　へんとつくり等の組合せ方について

（１）大小，高低などに関する例



（２）はなれているか，接触しているかに関する例



２　点画の組合せ方について

（１）長短に関する例



（２）つけるか，はなすかに関する例

